日本小児内分泌学会 ／ ファイザー
公募型医学教育プロジェクト助成

小児内分泌領域での医療の質を向上するための取り組み

外部有識者審査プロセス

本公募の概略

日本小児内分泌学会、ならびにファイザーは本教育助成で、小児内分泌領域での医療の質を向上する事を目的とします。

小児内分泌疾患に携わる医療従事者等の行動変容を促し、患者とその家族の予後や治療アウトカムが改善される事を期待します。

対象国

日本

対象疾患 ／ 目的

小児内分泌疾患領域での医療の質を向上することを目的とした、以下のようなプロジェクトが支援の対象となります。

- 成長曲線の普及
- 学校保健・小児保健との連携
- 移行期医療の推進
- 小児内分泌疾患に関連するこころの医療
- 災害時における対応の推進
- 適正な診断と治療の推進（小児内分泌疾患に関する専門的知識の普及）

締切日等 スケジュール

- 公募締切日：2023 年 ~~7 月 18 日~~ **8 月 1 日 （再公募）**
- 審査結果通知：2023 年 9 月
- 助成金を使用したプロジェクトの開始日：2024 年 1 月

助成額 ／ プロジェクト実行期間

- 助成総額：10,000,000 円
- プロジェクト1件あたりの上限額：

  大規模プロジェクト；3,000,000 円

  小規模プロジェクト：1,000,000 円
- プロジェクト実行期間：1年間～3 年間

I. 応募資格

対象国:

- 日本

申請団体要件:

- 以下の施設・団体に所属し、その所属施設・団体として申請してください。個人として申請することはできません。
  - o 大学、大学病院、地域中核病院、その他医療系の教育機関
  - o 医療系の学会・研究会等
  - o 医療系の財団法人、NPO 法人など（疾患領域に関する活動を行っている法人、患者会、患者支援団体など）
  - o 医師会・薬剤師会・歯科医師会

- 他施設／他団体と連携したプロジェクトの場合、すべての施設・団体が意味のある役割を果たし、その中でも申請する施設・団体が最も重要な役割を果たすこととします。
- 応募の際には、各所属施設・団体からの了解を得てください。

II. 公募詳細

公募開始日:

- 2023 年 3 月 8 日

公募対象疾患:

- 小児内分泌疾患

本公募の目的:

本公募は、
① 医学的・科学的知識を実践にうまく活かせていない
② 医学的・科学的知識を実践に活かしてはいるものの結果や成果が伴わない
という状況を改善するため、医療従事者の行動の変容を促すようなプロジェクトを支援するものです。

下記の「プロジェクトの対象者」における、小児内分泌領域での医療の質の向上を目的とした、以下のようなプロジェクトが支援の対象となります。

- 成長曲線の普及
- 学校保健・小児保健との連携
- 移行期医療の推進
- 小児内分泌疾患に関連するこころの医療
- 災害時における対応の推進
- 適正な診断と治療の推進（小児内分泌疾患に関する専門的知識の普及）

注意事項：臨床試験（介入／非介入）、非臨床試験、疫学研究、レジストリー構築等の研究を含むプロジェクトは本公募の対象外です。また COI の観点より、診療ガイドラインやコンセンサス等の作成が含まれるプロジェクトも助成対象外とします。

プロジェクトの対象者：

- 医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師など）ならびに乳幼児健康診査や学校健康診断に関与する養護教諭や保健師、教員等

本公募の背景：

小児にとって内分泌異常は、成長・発達・成熟に直接関わる問題であり、診断が遅れたり治療が適切でなかったりする場合には、生涯を通じての不利益を被る事がある。高度な専門性が求められる小児内分泌疾患医療では、複雑なホルモンの作用機序や分子基盤の仕組みを正しく理解することが求められている【1】。近年、学問の進歩や医療をめぐる環境の変化により、小児内分泌領域は下記の様にさらに深化している【2】。

① 遺伝学研究の成果が新たな疾患の発見や病態の解明に結実している
② トランンスレーショナルリサーチなどによる治療方法の開発が急速に進み、超希少疾患にも有効な薬剤が使用できるようになってきている
③ 標準的診療のガイドラインや患者向けツールの開発も進んでいる
④ 小児期発症内分泌疾患の成人期医療へのトランジションや生涯管理が注目されている

医学教育的な取り組みに関連する既存報告として下記に例を挙げる。

Commentary: Launch of a quality improvement network for evidence-based management of uncommon pediatric endocrine disorders: Turner syndrome as a prototype J Clin Endocrinol Metab. 2015;100(4):1234-6.

A quality improvement project to address the challenges surrounding zoledronic acid use in children J Bone Miner Metab. 2021;39(4):693-699.

Improved screening for cystic fibrosis-related diabetes by an integrated care team using an algorithm Pediatr Pulmonol. 2014;49(10):971-7.

Creating a sustainable pediatric diabetes transition program J Pediatr Nurs. 2021 7;S0882-5963(21)00159-7.

Health-system-based interventions to improve care in pediatric and adolescent type 1 diabetes Curr Diab Rep. 2015;15(11):91.

The impact of adrenal tumor multidisciplinary team meetings on clinical outcomes Endocrine. 2020;69(3):519-525.

関連するガイドライン等：

- 日本人小児の体格の評価
- 成長ホルモン分泌不全性低身長症の小児期の成長ホルモン治療から成人期の成長ホルモン治療への移行ガイドライン
- SGA 性低身長症における GH 治療のガイドライン
- ターナー症候群におけるエストロゲン補充療法ガイドライン
- 性分化疾患初期対応の手引き
- 性分化疾患対応の手引き（小児期）
- 21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2021 年改訂版）
- 21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2014 年改訂版）推奨版
- 先天性甲状腺機能低下症マス・スクリーニングガイドライン（2021 年改訂版）
- 先天性甲状腺機能低下症マス・スクリーニングガイドライン（2014 年改訂版）推奨版，Q&A

- 小児期発症バセドウ病診療のガイドライン 2016
- 小児期発症バセドウ病診療のガイドライン 2016 推奨版，Q&A
- 骨形成不全症の診療ガイドライン
- ビタミン D 欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き
- 先天性高インスリン血症診療ガイドライン
- 小児がん経験者（CCS）のための内分泌フォローアップガイド
- 小児肥満症診療ガイドライン 2017
- 小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン
- プラダーウィリ症候群コンセンサスガイドライン

現状課題：

小児期にみられる内分泌疾患は、どれも成長・発達・成熟に大きな影響を及ぼすために、小児内分泌の専門家が主体的に診療に関わることが望まれる。下記に一例として、①学校保健・小児保健との連携、②移行期医療、③災害時における対応、について現状の課題を示す。

①学校においては、学校保健安全法に基づき毎年健康診断を行い、成長の状態を把握する目的で身長や体重の測定を行っている。しかし、貴重な測定データを十分に活かすことは必ずしも容易でなく、文部科学省は成長曲線等の定期的な活用を呼び掛けている【3】。

②小児期発症疾患の生命予後が改善し、多くの患者は疾患を持ったまま思春期成人期を迎える。成人期に移行しても適切な医療を継続的に、生涯にわたり受けられるように、シームレスな医療を提供することが求められる。患者が成人年齢に達する時点までに準備すべきである。単なる転科（トランスファー）にとどまらず、小児期医療と成人期医療をつなぐ架け橋となる移行期医療が重要である【4】。

③東日本大震災や熊本地震は小児医療に大きな影響を与える大規模災害となった。災害派遣医療チーム（DMAT）や小児周産期リエゾンによる災害対応も整いつつあるが、継続的な専門医による診療が必要である小児内分泌疾患患者の災害対応は今後の課題となる【5】。

本公募の助成額：

- 助成総額：10,000,000 円
- プロジェクト1件あたりの助成上限額：　大規模プロジェクト　3,000,000 円
  小規模プロジェクト　1,000,000 円*
- 助成額は、日本小児内分泌学会が選定する専門家を中心とした、外部有識者等による審査会にて決定されます。

*小規模プロジェクトは「単施設、地域限定、パイロットスタディ」の様なプロジェクトが該当すると想定しています。

締切日等スケジュール：

- 公募開始日: 2023 年 3 月 8 日
- 公募締切日: 2023 年 ~~7 月 18 日~~ **8 月 1 日 （再公募）** ＊アメリカ東部時間
- 審査結果通知: 2023 年 9 月
- 助成金は教育助成契約締結後に支払われます。
- 助成金を使用したプロジェクトの実行: 1～3 年間 （2024 年 1 月～2026 年 12 月）

申請方法：

- 以下の URL をクリックし、オンライン申請システム（Global 共通システム）よりお願いします。
  www.cybergrants.com/pfizer/QI
- 初めて申請をされる方は、まず“Create your password”をクリックし、アカウント登録を完了してください。
- 申請に際しては、こちらの申請の手引きをご参照ください。
  - “Are you replying to a Request for Proposal as part of the Competitive Grant Program?” の質問には **必ず Yes** を選択してください。
  - Competitive Grant Program Name の選択では、“2023 RD JP: Quality Improvement in Pediatric Endocrinology Fields” を選択してください。
  - Primary Area of Interest の選択では” *Endocrine*”の各疾患より、最も該当する疾患を選択してください。

- 申請に必要な情報を申請システムに英語で入力し、Page 5 の「プロジェクト申請書様式」を参照の上、プロジェクト申請書（Letter of Request/Agenda/Project Description）を作成しシステム内にアップロードしてください。
  プロジェクト申請書(Letter Of Request/Agenda/Project Description)のみ日本語での記載が可能です。
- 注意事項：申請タイプを間違えて提出がなされた場合、または締め切り後に提出された場合は、その理由如何によらず、受領できないことを予めご了承ください。

お問い合わせ：

- ファイザー MEG－J事務局
  meg.japan@pfizer.com
  お問い合わせ際、件名に、今回の公募タイトル「小児内分泌領域での医療の質を向上するための取り組み」をご記載ください。

助成契約：

- 助成金が承認された場合、ファイザーと書面による助成金契約を結ぶ必要があります。契約の主要な条件を表示するには、こちらをクリックしてください。
- ファイザーはバランスが取れ、合理的であるように、且つファイザー/申請団体両者の目的を推進するために、これらの契約条件（上記リンク内の文書をご参照ください）を定めました。助成金契約の手続きには多くのリソースが必要となります。そのため、申請を進める前に、所属施設・団体（法務部門を含む）がこれらの条件を順守できることを確認してください。

審査：

- 本公募により受け付けた助成申請は、ファイザーが最終的な助成金決定を行うために審査します。

その他注意事項：

- ご申請後の連絡（採択結果含む）はメールにて行います。
- レビューに必要な追加情報・資料の提出などを依頼することがありますので、予めご了承ください。
- 助成プロジェクト開始後、半年に1度、進捗を報告頂きます（中間報告）。また、プロジェクト終了後、最終報告を提出していただきます。

- 助成契約締結後、止むを得ない事情により、申請内容（プラン、スケジュール、助成金使途、プロジェクトメンバーなど）に変更が生じた場合は、必ずご連絡ください。
- 採択施設（団体）はプロジェクトの概要の発表を依頼することがありますので、予めご了承ください。
- 本公募要項についてのオンライン説明会を検討しております。詳細については日本小児内分泌学会のホームページにて改めてご案内します。

リファレンス：

【1】ビギナーのための小児内分泌診療ガイド

【2】小児内分泌学　改訂第 2 版

【3】東海学校保健, 25, 33-41, 2001

【4】小児期発症内分泌疾患の成人への移行期医療に関する提言

【5】日本小児救急医学会雑誌, 19, 2, 199-201, 2020

日本小児内分泌学会について

一般社団法人日本小児内分泌学会は、小児内分泌学の進歩普及をはかり、小児の福祉に寄与することを目的として、1967 年（昭和 42 年）に設立しました。学会員は、小児内分泌学や小児糖尿病学を専門とする臨床医とそれらの分野の研究者などから成り、現在会員数は 1,400 名を超えています。

目的を達成するために、次の事業を行っています。

（1） 学術集会の開催

（2） 研究、調査、知識の普及のための研究会、講演会などの開催

（3） 学会誌、その他の出版物の刊行

（4） 小児内分泌学における臨床医・研究者・教育者の育成

（5） 小児内分泌学の診療・研究支援

（6） 国際交流の促進

ファイザー Global Medical Grants について

ファイザー Global Medical Grants（GMG）は、医療関連団体自らが立案・実行するプロジェクト（ファイザーが注力する疾患領域における、患者さんのアウトカムを改善・向上させるための研究、医療の質を改善するプロジェクト、教育プロジェクト）を支援します。

ファイザー GMG の公募型医学教育プロジェクト助成では、公募要項（RFP）を弊社 Web サイトに公開しています。公募要項には、公募の目的・締切日等のスケジュール・最終的な助成決定がファイザー社内でなされる点などの詳細が記載されています。申請団体は、各 RFP に記載されている“プラクティスギャップ”・“クオリティギャップ”を埋めることができるようなプロジェクトの立案をしてください。

プロジェクトの立案・実行は、申請団体の責任のもとに行い、ファイザーがそれらに関与することは一切ありません。

プロジェクト申請書様式

表紙にはプロジェクトタイトル、作成日及びバージョンを記載してください。本申請書は、**日本語での記載が可能**です。

プロジェクトの背景・目的

- プロジェクトの背景・目的を簡単に記載してください。
- 学習および期待される成果の観点から、プロジェクトで達成する予定の目的を列挙してください。

プロジェクトのニーズ評価

- プロジェクトを実行する必要性を、現在の状況（プロジェクト対象者のレベルなど）をふまえ、記載してください。（定量的データがあれば望ましい）

プロジェクトの対象者

- プロジェクトの主な対象者を記載してください。
- 対象者の数を記載してください。

プロジェクトプラン・スケジュール

- プロジェクトの具体的な実施方法や、マイルストーンをどのように設定しているのか記載してください。
- プロジェクトの詳細なスケジュールを記載してください。（表形式が望ましい）

プロジェクトの評価・結果の測定

- プラクティスギャップ／クオリティギャップが解消されたかどうか、プロジェクトの評価を測定する指標を用い、どのように判定するのか、以下の項目を含め、記載してください。
  - 判定に使用するデータソース
  - データの収集・分析方法
  - 評価結果とプロジェクトとの因果関係を判断する方法
- プロジェクトの予想成果を“対象者”の観点から定量化してください。（例：ベースラインから 10%上昇する）

プロジェクトの画期性

- プロジェクトの画期性について、他のプロジェクトや申請プロジェクトに先駆けて実施した（もしくは進行中の）プロジェクトがあれば、それらと比較して記載してください。

プロジェクト終了後の展開

- プロジェクト終了後、成果・結果をどのように展開していくか、どのように教育を継続させていくことを考えているか記載してください。

その他プロジェクトに関する追加情報

- その他、上記以外の情報があれば、記載してください。

次頁へ続く

申請団体・プロジェクトメンバー

- 申請団体についての詳細を記載してください。
- プロジェクトメンバーを記載してください。
- 応募プロジェクトでパートナーとなる団体（施設）がある場合は、その団体（施設）名称を記載し、その団体（施設）の役割を明確にしてください。

予算明細

- プロジェクト実行に必要な費用のみ計上可能です。費用の明細を記載ください。（表形式が望ましい）
  ただし、弊社からの助成金は**以下費目には使用できません**。
  - 個人費用（懇親会費などの飲食費用、プロジェクト対象者の参加費・交通宿泊費など）
  - プロジェクト終了後に申請団体の資産となりえるもの（パソコン、ソフトウェア、カメラ、医療機器など）、医薬品、テキスト・教科書の購入
  - プロジェクトメンバーの人件費（給与・謝礼）
  - プロジェクトメンバーが知識習得のために参加する学会等への参加費・交通宿泊費
- 施設へのオーバーヘッド（間接費用）は、プロジェクト費用の 28%を上限に計上することができます。ただし、間接費用を計上される場合でも、本公募で定めたプロジェクト 1 件あたりの上限額を超えることはできません。
- 消費税込で記載してください。